

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7584986号
(P7584986)

(45)発行日 令和6年11月18日(2024.11.18)

(24)登録日 令和6年11月8日(2024.11.8)

(51)国際特許分類	F I		
E 0 4 F 13/08 (2006.01)	E 0 4 F 13/08	1 0 1 R	
E 0 4 B 1/62 (2006.01)	E 0 4 B 1/62	Z	
E 0 4 B 1/68 (2006.01)	E 0 4 B 1/68	A	
E 0 4 F 19/02 (2006.01)	E 0 4 F 19/02	T	

請求項の数 2 (全8頁)

(21)出願番号	特願2020-175264(P2020-175264)	(73)特許権者	000198787
(22)出願日	令和2年10月19日(2020.10.19)		積水ハウス株式会社
(65)公開番号	特開2022-66741(P2022-66741A)		大阪府大阪市北区大淀中1丁目1番88号
(43)公開日	令和4年5月2日(2022.5.2)	(73)特許権者	000101776
審査請求日	令和5年10月17日(2023.10.17)		アルメタックス株式会社
特許法第30条第2項適用	令和2年5月7日に積水ハウス株式会社にて販売		大阪府大阪市北区大淀中1丁目1番30号
		(74)代理人	100080182
			弁理士 渡辺 三彦
		(72)発明者	山下 浩祐
			大阪府大阪市北区大淀中1丁目1番88号 積水ハウス株式会社内
		(72)発明者	足立 智之
			大阪府大阪市北区大淀中1丁目1番88号
			最終頁に続く

(54)【発明の名称】 内壁の見切り構造

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

建物の内壁に用いられる下地材、上部面材、下部面材及び見切り材を用いた内壁の見切り構造であって、

前記見切り材は、前記上部面材と前記下部面材とを仕切る仕切り板と、
前記仕切り板と直角となるように連結され前記上部面材の裏面に隣接する裏面板と、
前記仕切り板の長手側面の一端部において、前記裏面板の最下部より下になるように下方向に突出して設けられ、前記下部面材の上端角を覆い隠し上端縁形状がアール状である見切り縁と、

前記裏面板に長手方向に一定間隔に連続して設けられ前記見切り材を前記下地材に固定するための締結部材が挿通される複数の孔と、を具備し、

前記見切り材は、前記下部面材、前記仕切り板及び前記見切り縁の間に空白箇所が形成されるように前記仕切り板と前記裏面板とが連結されていることを特徴とする内壁の見切り構造。

【請求項2】

前記見切り材は、前記見切り材同士の短手側面の一端部の前記仕切り板及び前記見切り縁が角丸となるように接続され出隅役物として用いられることを特徴とする請求項1に記載の内壁の見切り構造。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、建物の内部の土間、居室または廊下等の内壁に用いられ、加工性に優れた見切り材を用いた内壁の見切り構造に関するものである。

【背景技術】

【0002】

一般に、住宅の内装において、見切り材は、例えば、内壁面の下部と床面との間に設けられる幅木や内壁面の開口部等に設けられる化粧枠等に各種の化粧材が用いられている。

【0003】

特に土間ではタイルの立ち上がり壁が用いられていることが多く、タイルとクロス及び石膏ボードとを見切る場合、タイルの上端角が現れるため安全でなく、意匠性もよくないものであった。

10

【0004】

そこで、特許文献1には、建築物の内壁材の連結部構造に関するものであって、連結部下部の面材の上端部を隠すと同時に、見切り縁が丸みを帯びた形状である見切り材が提案されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【文献】特開2009-97288

【発明の概要】

20

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

しかし、特許文献1に記載の連結部構造は、形状が複雑であるため生産性が低く現場での加工性に優れず、裁断等の応用が利かないものであった。

【0007】

そこで、本発明は、立体的な見切り縁が意匠性にも優れており、タイルなどの面材の上端部を隠すことで、上端角にぶつける危険性を回避し、さらに現場での加工性を容易にした見切り材を用いた見切り構造を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0008】

30

上記課題を解決するために本発明に係る内壁の見切り構造は、建物の内壁に用いられる下地材、上部面材、下部面材及び見切り材を用いた内壁の見切り構造であって、前記見切り材は、前記上部面材と前記下部面材とを仕切る仕切り板と、前記仕切り板と直角となるように連結され前記上部面材の裏面に隣接する裏面板と、前記仕切り板の長手側面の一端部において、前記裏面板の最下部より下になるように下方向に突出して設けられ、前記下部面材の上端角を覆い隠し上端縁形状がアール状である見切り縁と、前記裏面板に長手方向に一定間隔に連続して設けられ前記見切り材を前記下地材に固定するための締結部材が挿通される複数の孔と、を具備していることを特徴とする。

【0009】

好ましくは、前記見切り材は、前記下部面材、前記仕切り板及び見切り縁との間に空白箇所が形成されるように前記仕切り板と前記裏面板とが連結されていることを特徴とする。

40

【0010】

好ましくは、前記見切り材は、前記見切り材同士の短手側面の一端部の前記仕切り板及び前記見切り縁が角丸となるように接続され出隅役物として用いられることを特徴とする。

【発明の効果】

【0011】

本発明の特徴によれば、内壁の見切り構造における見切り材として用いられ、見切り材の見切り縁が下方向に突出しており、下部面材の上端角を隠すことで施工の際の作業者や居住者の安全性を確保し、また見切り縁の上端縁がアール状であるため、立体的なデザインとして意匠性を高めることができる。裁断をした際に反り返らないため現場での裁断が

50

可能となり、応用性の高い見切り材とすることができる。

【0012】

また、下部面材と仕切り板及び見切り縁との間に空白箇所が形成されるように裏面板と仕切り板を連結した見切り材を用いることで、空白箇所に余分なモルタルや接着剤等を隠すことができる。

【0013】

出隅役物として用いることで、見切り材の汎用性が広がり、様々な内壁にも利用することができる。また、見切り材同士の長手方向端部の仕切り板及び見切り縁が角丸になるように接続することで居住者等が出隅角にぶつけても怪我をしにくくなる。

【図面の簡単な説明】

【0014】

【図1】本発明に係る内壁の見切り構造に用いられる見切り材を示す概略斜視図。

【図2】図1のA-A断面図。

【図3】土間におけるタイル立ち上がり壁と内壁の見切りに用いられる実施例を示す納まり図。

【図4】見切り材の第2実施形態を示す出隅役物の概略斜視図。

【発明を実施するための形態】

【0015】

以下に、本発明に係る見切り構造について図面を参照して説明する。本発明に係る内壁2の見切り構造において用いられる見切り材1は、土間や居室又は廊下等の室内の内壁2に設けられ、全体として細長い形状である。材質は主に現場でも加工性の応用が利く安価なアルミニウムで形成されている。また、見切り材1には塗装も容易に行うことができる。塗装を行うことで高級感を演出させることができ、内壁2のデザインに適した見切り材1とすることができる。

【0016】

図1、図3に示すように、見切り材1は、上部面材2a及び下部面材2bの連結面2a2、2b2の間に仕切り板3と、上部面材2aの裏面2a3と隣接して仕切り板3と直角となるように裏面板7が連結されている。また、裏面板7は、上部面材2aの背面に設置されている下地材4に締結部材5を打ち込むための孔6が長手方向横一列に500mm間隔で設けられている。また、仕切り板3の端部にある見切り縁8の上端縁8aは、丸みを帯びるようにアール状となっている。見切り材1の長手方向の長さLは、3000mmとして用いているが、裁断することにより長さLは内壁2の上部面材2a、下部面材2bの長さに応じて随時変更可能である。

【0017】

図2は見切り材1の断面図を示している。見切り材1の長手方向に直交する断面の形状は略L字型の形状となっている。裏面板7の高さHは24mm、厚さTは1.5mmとしており、仕切り板3の奥行Dは17mmであり、見付け高さHdは4mmである。逐一個別的に大きさを決め注文して生産された特注品でなく、上記で述べた大きさに統一して生産することで見切り材1の生産性をあげることができる。また、現場で見切り材1を用いる際、見切り材1を連続して繋げるように用いる場合や内壁2の一边が3000mm以下である場合は、見切り材1の長手方向の長さLは3000mmと長い場合内壁2の一边の終端に合わせるために見切り材1の端部を現場で裁断しなければならない場合がある。見切り材1の材質はアルミニウムであり、厚さTを1.5mmと薄いので、現場でも裁断を容易にすることができる。さらに見付け高さHdを4mmと高くすることで、裁断をした際に、見切り縁8や仕切り板3の反り返りを防止することができる。このように加工性に優れ、現場でも応用が利いた生産性の高い見切り材1とすることができる。また、見切り材1のサイズは、裁断が可能であり反り返りが起こらなければ、内壁2の構造に応じて随時変更可能である。

【0018】

仕切り板3は、上部面材2aと下部面材2bとを仕切るための板であり、裏面板7と直

10

20

30

40

50

角になるように連結されている。この時、裏面板 7 の最下部と連結するのではなく、最下部から少し上方箇所仕切り板 3 と連結していてもよい。この場合、下部面材 2 b、仕切り板 3 及び見切り縁 8 との間の空間に、高さが 1 mm～3 mm の空白箇所 9 が形成される。

【0019】

見切り縁 8 は、仕切り板 3 の長手側面の一端部に設けられ、見切り縁 8 の上端縁 8 a が丸みを帯びたアール状となっており、裏面板 7 の最下部より下側に突出するように形成されている。そして見切り縁 8 の下部面材 2 b 側の裏面に下部面材 2 b の上端角と接触する斜面 8 c が形成されている。斜面 8 c が下部面材 2 b の上端角と接触して上端角を覆い隠すので、作業者が施工を行う際や、入居者が壁に寄りかかった際に、上端角にぶつかる危険性を回避することができる。さらに、見切り縁 8 は見付け高さ H d や見付け出 D f が立体的なデザインを生み出し、上端縁 8 a をアール状にすることでホテルライクの空間演出性を上げて内壁 2 の意匠性を上げることができる。前述したように、見切り縁 8 の見付け高さ H d は、4 mm 以下である場合、裁断をした際に仕切り板 3 や見切り縁 8 が反り返る可能性があり見切り材 1 として用いることができなくなってしまうが、見付け高さ H d が 4 mm 以上であれば、仕切り板 3 や見切り縁 8 が反り返らなくなる。逆に見付け高さ H d が長くなりすぎると見切り材 1 の裁断が難しくなり、また見切り材 1 を設置した後の見切り縁 8 の存在感が大きくなり意匠上よくないため、それらに適合する最適な見切り高さ H d とする必要がある。

【0020】

図 3 は、実施例として土間に見切り材 1 を用いた際の納まり図を示している。本実施例において下部面材 2 b は、タイル 10、モルタル下地 11 からなる立ち上がり壁 12 であり、上部面材 2 a は、石膏ボード 13、不燃化粧板 14 といった内装材である。床にはタイル 10 がモルタル下地 11 上にモルタルによって固定されて敷き詰められており、また下部面材 2 b として、モルタル下地 11 にタイル 10 がモルタルによって固定されタイル立ち上がり壁 12 が形成されている。下部面材 2 b であるタイル立ち上がり壁 12 の連結面 2 b 2 と上部面材 2 a の連結面 2 a 2 の間に見切り材 1 の仕切り板 3 が設置され、仕切り板 3 と直角となるように連結された裏面板 7 が上部面材 2 a の裏面 2 a 3 に隣接している。下部面材 2 b が見切り縁 8 の斜面 8 c と裏面板 7 の最下部との 2 点で接地されており、下部面材 2 b と仕切り板 3 と見切り縁 8 との間の空間に空白箇所 9 が形成されている。また、仕切り板 3 の長手側面の一端部にある見切り縁 8 は上部面材 2 a 及び下部面材 2 b の表面 2 a 1、2 b 1 側に露出するように設けられており、上端縁 8 a がアール状となるように下方向に突出しており、タイル立ち上がり壁 12 のタイル 10 の上端角を隠している。従って、居住者等は上端角にぶつかる心配がなくなる。

【0021】

仕切り板 3 の上部には、上部面材 2 a である石膏ボード 13 及び不燃化粧板 14 が設置されている。見切り材 1 及び石膏ボード 13 の下端部の裏面 2 a 3 に下地材 4 が設置されており、見切り材 1 及び石膏ボード 13 はネジなどの締結部材 5 を用いて下地材 4 に孔 6 を挿通して打ち付けることで固定されている。また、見切り材 1 はタイル 10 からの湿気を石膏ボード 13 及び不燃化粧板 14 に伝えにくくする効果も有している。下部面材 2 b は、タイル 10 及びモルタル下地 11 の立ち上がり壁 12 に限定されず、幅木や腰壁または畳寄せ等でもよい。

【0022】

実際に施行する際は、最初に下地材 4 に見切り材 1 の孔 6 により締結部材 5 を打ち付けて固定する。500 mm 間隔で孔 6 が形成されているが、必要であれば現場で新たに孔 6 を形成して締結部材 5 を打ち付けることもできる。その後、石膏ボード 13 の下端部を下地材 4 に締結部材 5 を打ち付けて取り付ける。そして石膏ボード 13 上に不燃化粧板 14 を張り付ける。この際、石膏ボード 13 や不燃化粧板 14 の厚さによって、見切り材 1 の見切り出 D f の長さを決定することができる。例えば、仕切り板 3 の奥行 D の長さは 17 mm であるため、石膏ボード 13 の厚さが 12.5 mm、不燃化粧板 14 の厚さが 3 mm であれば見切り出 D f の長さは 1.5 mm とすることができる。石膏ボード 13 や不燃化

10

20

30

40

50

粧板 1 4 は様々な種類があるため、見切り出 D f の長さを石膏ボード 1 3 や不燃化粧板 1 4 の種類によって変更することで、内壁 2 のデザインを様々設計することができる。そして最後にモルタルを用いて、タイル 1 0 をモルタル下地 1 1 に貼り付ける。図 3 に示すように、貼り付ける際に、モルタルがタイルからはみ出たとしても、見切り材 1 の空白箇所 9 に埋もれることによって余分のモルタル M を隠すことができ、意匠上の見た目をよくする効果を有する。

【 0 0 2 3 】

図 4 は、見切り材 1 の第 2 実施形態として、見切り材 1 同士の短手側面の一端部における仕切り板 3 及び見切り縁 8 が溶接により角丸となるように接続された出隅役物 1 5 を示している。見切り材 1 を出隅役物 1 5 も見切り材 1 と同様に、見切り縁 8 が下部面材 2 b の角や出隅の角を隠すことで、居住者等の安全性を保つことができる。溶接する際は、焦げ跡を目立たせないように、出隅の裏側となる方向からバーナーを当てる。裏側からバーナーを当てることで、バーナーが当たる範囲を最小限に抑えることができる。多少の焦げ跡が残ったとしても、裏側にしか焦げ跡が残らないため、内壁 2 に取り付けることで石膏ボード 1 3 や不燃化粧板 1 4 で焦げ跡を隠すことができ、表側には焦げ跡が出ないため意匠上の問題はない。施工する際は、見切り材 1 と同様に、先に出隅役物 1 5 を下地材 4 に締結部材 5 で固定した後に、石膏ボード 1 3 を出隅役物 1 5 の上に載せ下地材 4 に締結部材 5 で固定した後、最後にタイル 1 0 等の下部面材 2 b をモルタルや接着剤で貼り付ける。出隅役物 1 5 も空白箇所 9 が設けられているため、余分のモルタル M や接着剤は空白箇所 9 に隠すことができる。また、図 4 では直角となるように見切り材 1 同士が接続されているが、必要であれば直角でなくても自由に角度を決めることができ、様々な出隅を有する内壁 2 に見切り材 1 を使用することができ、汎用性を上げることができる。

【産業上の利用可能性】

【 0 0 2 4 】

本発明に係る見切り構造は、建物の土間、居室及び廊下等の屋内の内壁 2 を見切るために好適に用いられる。

【符号の説明】

【 0 0 2 5 】

- | | |
|-------|--------|
| 1 | 見切り材 |
| 2 | 内壁 |
| 2 a | 上部面材 |
| 2 a 1 | 表面 |
| 2 a 2 | 連結面 |
| 2 a 3 | 裏面 |
| 2 b | 下部面材 |
| 2 b 1 | 表面 |
| 2 b 2 | 連結面 |
| 3 | 仕切り板 |
| 4 | 下地材 |
| 5 | 締結部材 |
| 6 | 孔 |
| 7 | 裏面板 |
| 8 | 見切り縁 |
| 8 a | 上端縁 |
| 8 c | 傾斜面 |
| 9 | 空白箇所 |
| 1 0 | タイル |
| 1 1 | モルタル下地 |
| 1 2 | 立ち上がり壁 |
| 1 3 | 石膏ボード |

10

20

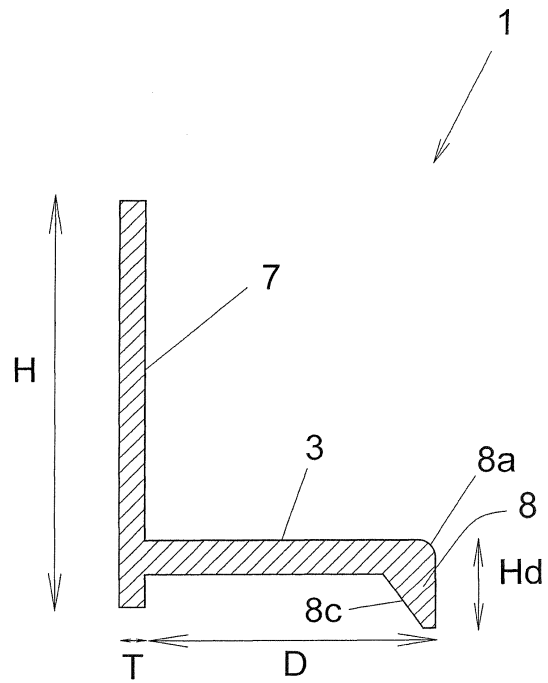
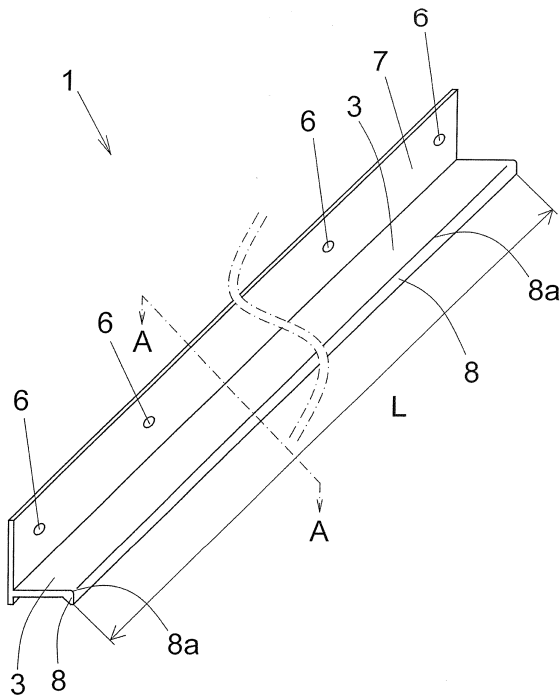
30

40

50

- 1 4 不燃化粧板
 1 5 出隅役物
 L 長さ
 T 厚さ
 H 高さ
 H d 見付け高さ
 D 奥行き
 D f 見切り出
 M 余分のモルタル
 【図面】
 【図 1】

【図 2】



10

20

30

40

50

フロントページの続き

- 号 積水ハウス株式会社内
- (72)発明者 田中 総一郎
大阪府大阪市北区大淀中1丁目1番30号 アルメタックス株式会社内
- (72)発明者 山脇 良典
大阪府大阪市北区大淀中1丁目1番30号 アルメタックス株式会社内
- 審査官 吉村 庄太郎
- (56)参考文献 実開昭53-142731 (JP, U)
実開昭58-062989 (JP, U)
特開2010-255210 (JP, A)
特開2003-160979 (JP, A)
実開昭59-042204 (JP, U)
特開平08-151696 (JP, A)
実開昭61-058341 (JP, U)
- (58)調査した分野 (Int.Cl., DB名)
E04F 13/08
E04B 1/62
E04B 1/68
E04F 19/02